



プロジェクト名称

中山間地域支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

【背景と目的】

研究室の活動を通して中山間地域という場所が深刻な問題に直面しているということ目の当たりにしました。そこで中山間地域における人手不足や高齢化に伴う生活活動の衰退を若い学生の力を提供して手伝えることによって支援することはできないかと考えました。

また、現場に行くこと、その活動をすることで都市部に住み、中山間地域に全く関心のなかった学生にもこういった状況を知ってもらいたいとも考えました。

【活動の概要】

大まかに2つの活動を行います。現地での活動とこちらでの中山間地域についての広報活動の2つです。また、活動対象地域は2つあります。1つは研究室と面識のある福島県南会津舘岩地区たのせ集落で、もう一つはメンバーの実家である長野県長和町和田です。

2地域との中山間に位置し、たのせは高齢化率が50%を超える限界集落で、和田も33%を超える超高齢化社会になっています。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2013年10月1日～12月31日

【和田での活動】

まちの特産品である山ぶどうワインの原料である、山ぶどうの収穫作業を行いました。普段都会で生活している私たちにとって山ぶどうの収穫作業という活動は全くの未体験でした。農家の方も学生さんが来てくれて作業が早く終わったとあっていただけ、とても良かったと思います。

作業後はペンションにてバーベキューを行い、まちの方から頂いた長和町のキノコやおやきををおいしくいただきました。参加者の方たちはペンションのオーナーの方から長和町のお話をお聞きしたりと、とても充実しており、長和町を楽しみながらも学んでくれている様子が印象的でした

2日目は長和町に現存する宿場町の散策を行いました。宿場町には、現在でも多くの古民家がそのままの形で残っており、民家の玄関先には代々受け継がれてきている昔の店名がかかれた看板が置かれておりとても印象的でした。また、その中で立ち寄らせていただいたよろず屋さんでは店長さんが長和町のまちづくりに関わってらっしゃることもあり、学生たちに長和町のまちづくりに関して熱く語っていただけました。

長和町はまちの中を歩いているだけでも住人の方から声をかけていただけるようなアットホームなまちでした。この長和町のように、都会の中で失われてしまっていた「人と人のつながりを大切にする文化」を思いださせてくれるまちを、これからも守っていくことの大切さを身をもって感じる事ができた機会となりました。



よろずや1



よろずや2



地元ペンションの方との集合写真



地元食材でのバーベキュー



珍しい流れ橋



古民家の古門



長和町大門の「オー
ドリファーム」奥
山次郎代表Ⅱが栽培す
る山ブドウ畑（古町）
でこのほど、同町和田
出身の芝浦工業大学4

広く知ってもらおうきっかけに

学生プロジェクト 芝浦工大生が収穫作業支援



年生、小山英希さん
(21)らが収穫作業を支
援した「写真」。同ファ
ームは委託醸造し商品
化している長和町奨励
品「山ブドウワイン」
「山ブドウ酢」などの原
料の山ブドウを5年前
から栽培。約30aに垣
根方式の約120本が
あり、今期は見込み約
1・5トンの収穫期を迎
えていた。

トを学生が企画立案し、
選考会で採択された企
画に大学が資金補助し
ている。様々なボラン
ティア活動や地域活性
化など社会貢献の取り
組みなど部門別に選ば
れている。

小山さんは、高齢化
が進む中山間地の課題
などを多くの学生に意
識してほしいとの思い
などから、農業作業支
援で社会貢献にもなる
中山間地援農のプロジ
ェクトを企画。本年度
の採択16プロジェクト
に入り、現地見や支
援先選定などを7月に
実施した。収穫に備え
るなど準備し、実施当日
は学生計10人で訪れた。
「参加者に旧中山道和田
宿を見てもうらうなど、
地域の魅力も知っても
らえたらいい」などと
話していた。

今回の活動が記事として地元の新聞「東信ジャーナル」さんに掲載されました。

今後の活動計画、目標、意気込みなど

【今後の活動計画】

広報活動の継続。インターネットをメインに行いたいと思います。

【目標と意気込み】

中山間地の実情を多くの人に知ってもらうためにこの活動を広報する必要があります。今回の活動でも改めて思うのは、こういった地域が価値のある場所であるということです。ですので、そのことを広めるとともに少しでも手助けをできればと考えています。

2カ所での活動を通して中山間地域の厳しい現状を再認識することとなりました。人手不足から始まり、後継者不足などとすぐに解決できる問題ではないと思います。しかし、今回の活動を通して多くの人々にこの事実を知ってもらうことはできるのではないかと思います。少なからずこの2回の活動に参加してくれた学生には伝わったことでしょう。